



NPO法人 ニュースタート事務局理事  
**二神能基さん**

●聞き手 編集部

わが国のひきこもり・ニートの推計は100万人にもものぼるといわれ、大きな社会問題となっております。10年以上にわたり、生きる目的を失った若者たちの支援をしている二神能基さんに、その取り組みと、これからの社会のあるべき姿について語っていただきました。

家族をひらく

— ニュースタートでは、ひきこもっている若者を社会につなぐために、訪問活動をしているそうですね。

二神 ニュースタートには、「レンタルお姉さん」「レンタルお兄さん」という訪問スタッフがいます。最近は見かけなくなつた「近所のちよつとおせつかいなお兄さん・お姉さん」を「一時的に貸し出す」というような意味合いです。2、3人でチームになって何度か訪問を重ねて、ひきこもっている

子とつながりを持ち、とにかく「家から出てもらう」ことを目的としています。ひきこもり・ニートの一番の問題

は、子どもと親の泥沼的な相互依存関係です。親と子をその泥沼から引き離すことで、子どもは初めて自分になります。また、子どもが社会から脱落すると親はそれを世間から隠そうとし、家族が社会からひきこもつてしまします。ニュースタートでは、二人の親だけでなく、地域や社会の中で若者を育てていくために「家族をひらく」ことを、すべての活動の理念としています。保健師さんのお仕事と少し似ているところがあるかもしれませんね。先日地方の保健所の講演に呼ばれて、元氣な

PROFILE ●ふたがみ・のうき●

1943年、韓国大田（テジョン）市生まれ。早稲田大学政治経済学部卒業。愛媛県松山市で学習塾、幼稚園経営を経て、世界各国を放浪し、各地の教育プロジェクトに参加する。1999年、千葉県浦安市で、ひきこもり、ニート、不登校などの若者を支援する団体「NPO法人ニュースタート事務局」を設立。これまで早稲田大学講師、文部科学省、千葉県などの各種委員を歴任。著書に『希望のニート』『暴力は親に向かう』（新潮文庫）、『勝ち負けから降りる生き方』（東洋経済新報社）などがある。

保健師さんに囲まれ、お酒を飲む機会に恵まれました。あまりにうちのレンタルお姉さんにびつたりの人だちだったので、「明日飛行場で待っているから、一緒に来なさい」とスカウトしましたが、翌朝誰も来ませんでした（笑）。

レンタルお姉さん・お兄さんは、普通の健康な男女が一番向いています。

だてに心理学を勉強した人だと、妙に理屈で考えて生身の人間を見ず「本人の自主性を尊重する」という建前ばかり言っているから、何度過っても家から出すことができない。ひきこもり経験者だと、相手の気持ちに分かりすぎて、かえって嫌がられる場合もあります。もちろん、うまくいっているケースもありますが、先入観がなくまっさらで、時には思い切った行動もとれるような、度量と行動力がある人が長続きするようです。

レンタルお姉さんは、4年前に水野美紀さん主演でNHKの土曜ドラマになりました。その中で水野さんふんずるレンタルお姉さんが、家で寝ているひきこもりの子のふとんを剥ぎ取って、窓から投げ捨てるシーンがありました。乱暴だし、推奨しているわけではないのですが、そういうことも必要になる場合があります。

うちにはイタリア人のレンタルお姉

誰が仕切っているわけでもなく、無理に話をする必要もありません。「人と一緒」という空気みたいなものを味わってもらおうのです。そうやって若い人たちの顔を見てみると、「だいたいほぐれてきたかな」とか「まだいびつな顔しているな」ということが分かります。

人とかかわりに少しづつ慣れていって、掃除、洗濯、食事なども自分でできるようになったら、今度は働く感覚を養うために、仕事体験をしてみます。千葉・行徳の若衆宿の周辺には、通称「ニュースタート通り」といわれる仕事体験塾が並んだ通りがあります。ここには、パン屋、レストラン、介護デイサービス、喫茶店、IT事業部、「何でもお手伝い屋」などがあり、いくつかの職場を体験して、自分の適性を知ってもらいます。これまで1000人を超える若者を預かってきましたが、そのうち8割以上の若者

さんもいます。彼女たちが以前、山口県のひきこもりの子のところに訪問したところ、何度声を掛けても玄関を開けてくれないので腹が立って、庭に水まきのホースがあつたので窓に水をぶっかけたら、怒って出てきた、ということもありました。ドアを開けたらイタリア人だったから、本人もさぞやびっくりしたことでしょう（笑）。そういう意外性も必要なのです。ゲリラ戦的な。本人が自主的に出てくるのを待っていたら、いつまでたっても出てきません。

私は、途中のプロセスは構わないから「結果を出せ」と言っています。家を出なければ何も始まりませんからね。

### 「働き」「仲間」「役立ち」

若者が家から出たら、次はどのよう

が今でも自立しています。

—実際の仕事体験ができるのはいいですね。

**二神** ニュースタートの人生支援活動の三本柱は、「働き」「仲間」「役立ち」です。

21世紀は、仕事に生きがいを求める時代ではありません。日本の経済成長の時代は終わりました。「男は仕事」「仕事をしてお金を稼ぐことが自立」なんて言いますが、今はそもそもそんな仕事はありません。千葉には書籍などの通販サイト会社が抱える巨大倉庫があります。すぐ雇ってもらえるので、うちの若者も働きに行っているのですが、そこでは商品が完璧に整理されて並べられており、端末に探すべき書名を入力すると、棚の番号が出て、その棚に行くちゃんとその本が並んでいるのでピックアップする、それを一日

な支援をするのですか。

**二神** 事務局の近辺で一人暮らしをしてもらうか、「若衆宿」という、ニュースタートの共同生活寮に入ってもらいます。今までひきこもっていたのに、いきなり寮生活は難しいので、最初は一人暮らしをする場合が多いですね。家から出た後も、しばらくレンタル活動は続きます。「デイズニールンド行こうよ」とか、なるべく楽しいことをさせながら、じりじりと社会生活にならせていくのです。

若衆宿は、他人と同じ屋根の下で暮らすことによって、ゆつくりと人とかかわる体験を積もうというものです。それから、私たちはこの10年間、毎週水曜日必ず「鍋会」をしています。ニュースタートで一番大切にしている活動です。寮生や一人暮らしの子を鍋会に呼んで、なんとなく人と交流させるのです。料理も自分たちで作ります。

に何度も繰り返し返すわけです。技能なんかまったく必要ありません。そういう仕事に生きる目的を見出すことができますでしょうか。好きな仕事を探せって言ったって、なかなか見つかりません。とりあえず、一番嫌でない仕事で食いぶちを稼いで、仕事で生きがいがない



仕事体験塾の喫茶店「縁側」で働く松成正博さん。笑いが絶えず、楽しそうに仕事をしているのが印象的



毎週1回必ずやっているニュースタートの「鍋会」。毎回50人くらいの若者が集まってくる

のなら仲間とわいわいやる生活を楽しみながら、なんらかの他人への役立ち感を持てるように指導する。これが大事だと思っています。

—今回の大震災で、若者たちも被災地にボランティア活動に行っているそうですね。

**二神** 先日も5人の若者が一週間、個人宅の敷地内のがれきの撤去や、ヘドロのかき出しなどをしに行っていました。果てしなく続くがれきの山に空しい気持ちを抱きつつも、家の人にもものすごく感謝されて、何となく役立ち感を持って帰ってきます。

実は今、千葉大学の広井良典先生らと「若者復興支援隊」の200億円の予算をとる作戦を展開しています。ニートの若者を1万人東北の被災地に派遣して、年俸200万円くらい支払うのです。復興にかかる金額は20兆円

とも言われていますから、200億円くらい安いもんでしょう。震災から半年たつて、ボランティアの数も激減しているそうですし、ニートの再出発の場として、ぜひ実現させたいと思っています。

### 日本は収容所列島

—ところで二神さんは、なぜ、ひきこもり・ニートなどの支援を始めたのですか。

**二神** 私はもともと松山市で進学塾を経営していました。有名大学への進学率も高く、塾生は約3000人おり、地方としては結構繁盛している塾でした。しかし、そこで奇妙なことが起りました。一流大学に受かって一流企業にまで進んだ子が、なぜか途中で辞めて戻ってきてしまい、働かないでぶ

らぶらしているのです。親が見かねて私のところに相談に来るケースが、何件も出てきました。ひよっとして私の進学塾の教育には、何か欠落している

部分があるのかもしれないと感じ、塾は後輩に委ねて、私は「隠居人」として世界各地を放浪して歩きました。このときから私もずっとニートです

(笑)。そしてイタリアに行ったときに、「アベルの会」という、目標喪失した若者を支援する団体と出会いました。驚くことに、その代表を務める神父さんは、防弾チョッキを付けていました。彼は拳銃で2回打たれているそうです。ヨーロッパではドラッグの問題が絡んでくるので、若者の支援も命懸けです。日本も「青少年の健全育成」なんて甘いことを言っているけど、そのうちそんなノンキな時代じゃなく

二神さんの隣はスタッフの布施友洋さん。彼も昔ひきこもりだったという。「何か大きな原因があったわけじゃない。自分の人生について考えて、いったん立ち止まったら、ルールから外れてしまった」と話してくれた



一杯入ってご機嫌の二神さん

なってくるんじゃないかな。そして私は、日本の不登校などの若者にイタリアで農業などの体験をしながら2カ月間生活してもらう、国際交流基金の助成事業「ニュースタート・プロジェクト」を始めたのです。イタリアで生活すると若者は人が変わったように快活になります。だけど日本に戻ってくるのとたんに元気がなくなり、結局元に戻ってしまう場合もありました。そのアフターフォローをしているうちに、いつのまにか、ひきこもり・ニートの支援団体のような形になってしまったのです。

—イタリアと日本では、福祉や医療に対する考え方に違いはありますか。

**二神** イタリアでは、1978年にバザリア法によって精神病院が廃止され、スペシャルスクールもすべてなくなりました。欧米各国は基本的に、「隔

離、收容する非人間的な施設を同胞として許してはいけない」という考え方は共通していて、精神病院の入院患者は激減しています。

イタリアでは実に巧妙なしかけを作っています。精神障害者は病院ではなく、農園に預けて農業労働をさせています。そして一週間に一度、医師が回診に行きます。農園には、通常病院に支払われる金額の半分くらいの金額を支払うようにして、地域全体で社会に復帰させようとしているのです。これに対して日本には依然として收容所のような病院がたくさんあります。地方へ行くと立派な老人施設ばかりで、日本は「收容所列島」になりかかっていますね。

—日本は弱いものは隠そうとする風潮があります。

**二神** 厚生労働省は昨年5月、「ひ

### ゆるやかな絆をつくる

—二神さんは、町の中に共同体のようなものをつくるという構想を練っているようですが。

**二神** ニュースタートでは、寮を出た後に、若者たちが集団で家賃を負担して住む「希望長屋」というものをつくりました。この周辺に何軒もできてい

ます。一人暮らして就労していると、帰りにコンビニでお弁当を買って、一人の部屋でそのお弁当を食べ、あとはネットばかりやっている、なんて生活になります。せっかくひきこもりから抜け出しても「結局、こんな人生か」とつまらなくなるでしょう。仲間と一緒に住んでいればマージャンもするし、ちよつとくらい悪いこともするだろうし、恋も生まれるかもしれない。多種多様な人とゆるやかな共同生活を送ることで、日常的に生きる喜

びを知ってほしいと考えたのです。当初、「雑居福祉村」という構想を立てて、イタリアの農村のようなものをつくりたいと思っていました。が、本当に日本は規制が多い国で、去年から少し緩和されたものの、NPOが農地を所有することはできないといつて、排除されてしまいました。しかし、現実にはこの辺りには300人くらいの若者たちが住んでいます。若者たちも、あんまり密度が濃いとしんどいという感覚もある。一つの団体がひとかた

### 二神能基さんの本



希望のニート  
(新潮社)



暴力は親に向かう  
(新潮社)



勝ち負けから降りる生き方  
(東洋経済新報社)

りに居住するよりも、町の中に点在しながら、一つの村のようにネットワークでつながっていて、一応の食いぶちは稼げて、役立ちの体験ができ、仲間と一緒に体験をしながら、少しずつ絆のようなものをつくっていけるような場所、出入り自由の、適度なゆるさがある、やわらかい共同体が徐々にできています。その中で多くのカップルができて、ニュースタートの子や孫がたくさん産まれてきているのが、嬉しいですね。

### 既得権益の崩壊から

—「生きづらい」世の中を変えることはできますか。

**二神** 国債の暴落があれば日本の財政は破たんします。正直に言うと、私たちは、これがチャンスだと思っていま

す。年金などの行政サービスは執行不能になり、あらゆる既得権益が崩壊するでしょう。うちの若者たちは、そういうしくみの中で排除されている人たちです。失うものはありません。このゆるやかなネットワークが、これからの生きづらい世の中の助け合いのシステムになるのではないかと感じています。今回の震災で、日本は意外に下部構造が強いな、と感じました。庶民にはいろんな知恵を出して助け合っていく基本的な力がある。政治家なんかの上部構造は全然ダメ。いま行政は財政難で、われわれも、国や自治体から助成を受けるだけではなく、対等な立場で、行政を助成できる力を蓄えようと考えています。

### 「神様以外はみんな障害者」

—私たち大人は、若者たちをどのよう

に支えていけばいいのでしょうか。

**二神** ひきこもり・ニートは働く意欲がないわけではありません。社会から排除されて「働けない」のです。高校や大学中退の人間や、いったん会社を辞めて空白期間があると、それだけでまともな就職ができなくなります。そういう社会的背景のほかに、失敗し続けてきたことで自己評価が低くなり、自分の生き方を見失ってしまうのです。哲学者の木田元さんの言葉を借りると、今の若者には生産拒否症候群があります。わが国は生産過剰です。世の中に物が溢れすぎているので、彼らにはもはや物欲がありません。ですから当然、何かをつくる意欲もないわけです。ひきこもり・ニートが増えたのは、大量生産、大量消費の日本への警鐘です。彼らは、物欲も競争心も低い、品性の高い21世紀の日本人です。彼らを「やる気のない若者」と見る私たちが



の20世紀の目は、下品なのです。私は彼らには「自立しなくてもいい」「他人にもたれあつて生きろ」と言っています。50%の自立で十分だと。今

の社会には一昔前のように、仕事で高額な報酬をもらって100%の自立ができるような人はひと握りです。これから私たち大人がすべきことは、彼ら

を更生させようという視点ではなく、社会的「負け組」といわれている人間が生きやすい、21世紀の幸福社会へ組み替えていくことだと思っています。

私はイタリアで「神様以外はみんな障害者だ」という考え方を学びました。いわゆるノーマライゼーションとは反対の言葉です。障害者が健常者並みになるために必死になつて頑張る必要はないと思うのです。人間はもともと不完全な生き物です。それぞれがどこか治らないダメな部分を抱えて生きています。障害者、健常者と区別せず、人間はみんな障害者だ、という視点に立てば、お互いに助け合うことができ、「人間と環境に優しい社会」になるのではないのでしょうか。

NPO法人ニュースタート事務局  
<http://www.new-start-jp.org/>